アマチュアオーケストラ

新交響楽団

第96回演奏会

1982年7月3日(土)7時　簡易保険ホール

ベートーヴェン
Ludwig van Beethoven (1770—1827)

交響曲　第6番　ヘ長調　作品68「田園」
Sinfonie Nr. 6　F-Dur Op. 68　"Sinfonia Pastorale"

Ⅰ. いなかに着いたときの愉快な気分
Allegro ma non troppo: Erwachen heiterer Empfindungen bei der Ankunft auf dem Lande

Ⅱ. 小川のほとり
Andante molto moto: Szene am Bach

Ⅲ. いなかの人々の楽しいつどい
Allegro: Lustiges Zusammensein der Landleute

Ⅳ. 雷とあらし
Allegro: Gewitter, Sturm

Ⅴ. 牧歌，あらしのあとの喜びと感謝
Allegretto: Hirtengesang, Frohe und dankbare Gefühle nach dem Sturm

バルトーク
Bartók Béla (1891—1945)

管弦楽のための協奏曲
Concerto for Orchestra

Ⅰ. 序奏
Introduzione: Andante non troppo-Allegro vivace

Ⅱ. 一対の戯れ
Giuoco delle coppie: Allegretto schezando

Ⅲ. 悲歌
Elegia: Andante non troppo

Ⅳ. 中断された間奏曲
Intermezzo interrotto: Allegretto

Ⅴ. フィナーレ
Finale: Presto

客演指揮　山岡重信

1931年生まれ。早稲田大学理工学部卒。ヴィオラをW・カルボーニ，作曲を小船幸次郎，指揮を岩城宏之，斉藤秀雄の各氏に学ぶ。ヴィオラ奏者として読売日響などに在籍の後，1964年から藤原歌劇団副指揮者として，指揮活動を開始した。同年，民音指揮者コンクールに入賞，読売日響の指揮者に就任し，ベートーヴェンの第9交響曲でデビューした。68年日本音楽舞踊批評家賞を受賞。72年より76年まで都響指揮者として活躍。76年9月より1年間文化庁派遣海外研修員としてドイツ，オーストリアに滞在。81年メキシコ現代日本音楽祭に出演。

演奏　新交響楽団

新交響楽団は1956年3月創立，主婦，学生及び様々な職業を持つ社会人から構成されている。創立以来，音楽監督芥川也寸志の献身的な指導のもとに，ソビエト演奏旅行の他，九州・沖縄等の国内演奏旅行，ベートーベンチクルス，ストラビンスキー3部作一挙上演を行った。

1976年には創立20周年記念として「日本の交響作品展」と名付けた2夜にわたる演奏会により，「芥川也寸志と新交響楽団」は第8回サントリー音楽賞を受賞。

ベートーヴェン　交響曲　第6番　ヘ長調　作品68「田園」

作曲年代　1807～8年，ハイリゲンシュタット
初　　演　1808年12月22日，作曲者指揮，ウィーン
献　　呈　ロプコヴィッツ侯とラズモフスキー伯に
出　　版　1809年　Breitkopf & Härtel
楽器編成　picc. 1，fl. 2，ob. 2，cl. 2，fg. 2，hr. 2，tp. 2，timp.，str.
使用楽譜　Breitkopf & Härtel
演奏時間　約40分

第6番「田園交響曲」は，ほぼ時を同じくして完成された「第5番」が純粋器楽の精髄ともいうべき厳格な造型を有しているのに対し，より自由な型でベートーヴェンの自然に対する讃歌がうたわれている。

「性格のある交響曲（シンフォニア・カラクテリスティカ）—または，いなかの生活への思い出。聴く人はそういった情景を，おのずと見出すであろう。器楽においては，いかなる絵画的描写も度を超すと失敗する。田園交響曲（シンフォニア・パストラーレ）。いなかの生活についてある思いを持つ者ならだれしも，多くの標題が無くとも，作者の意図することをおのずと考えることができよう。また説明が無くとも，全体が音の絵画というよりも，感情表現であることがわかるだろう。」

この最初のスケッチに記された言葉は，ベートーヴェンが当時ウィーンで流行していたらしい安易な描写音楽を戒める意味もあろうが，むしろ，描写においては絵画に譲るが，感情表現については音楽の方が勝っている，といった，いわば音楽家としての誇りを語っているのではないだろうか。そしてこのような作曲態度は，彼のメンデルスゾーンやシューマンに受け継がれるものであり，リストやR．シュトラウスとは一線を画するものと言える。

ところで，この「パストラル」という言葉の語源は古く紀元前に遡り，羊飼たちの生活を扱った文学を意味する。その後，マドリガルなど多くの声楽の題材にとり上げられ，また，イタリアにおいては，「牧歌劇」を意味する時代もあった。一方，器楽においては，16世紀末頃から，クリスマスの音楽の中で，キリスト降誕の後，ベツレヘムの羊飼たちの牧笛のメロディが間奏曲として演奏されるようになり，バロック末期のコンチェルト全盛時代には，クリスマスのミサのためのコンチェルトにも必らずこの楽章が挿入されていた。又，少し降って，ヘンデルのメサイヤの中にも「パストラール・シンフォニー」という短かい間奏の音楽がある。

ベートーヴェンもこのパストラールの伝統をとり入れており，例えば，冒頭において，トニックの持続低音の上に3度音程のメロディーが奏せられるのは，バロックのトリオ・ソナタの書法と言うことができ，その持続低音に多く用いられている「空5度」（第3音のないド・ソだけの主和音）の響きは，バグ・パイプを模したものである。また，ファゴット，オーボエなどのいわゆるミュゼット楽器は随所で重要なメロディーを受け持ち，牧人の音楽を彷彿させており，この交響曲の題名が単なる描写を意味するだけではないことを物語っている。

第1楽章：いなかに着いたときの愉快な気分

ヴィオラとチェロの「空5度」に支えられ，第1ヴァイオリンによっていきなり奏せられる第1主題は，しだいにのびやかにひろがり，自然の中で解き放たれてゆく精神を感じさせる。ソナタ形式により構成されている。

第2楽章：小川のほとり

同じくソナタ形式で書かれ，ほとんど間断なく，「小川のせせらぎ」が弦楽器の細かい動きで表わされる。木管どうし，あるいは弦との暖かい呼び交しは，聴く者の心に安らぎを与える。最後に，夜鶯＝Fl，鶉＝Ob，郭公＝Cl，の鳴声が2度奏せられ，静かに終る。

第3楽章：いなかの人々の楽しいつどい

3部分形式。木管の巧みな用法が，村人たちの踊りを交えた楽しいつどいの雰囲気を伝える。特に中間部では，この曲で初めて登場するトランペットが“田舎風舞曲”に色どりをそえる。不安な気分の再現部はそのまま次へ

第4楽章：雷とあらし

ピッコロとティンパニが，雷の効果音として，この楽章のみに用いられ，コントラバスがチェロと分れ，不気味なうごめきを聞かせる。また，トロンボーンも，管弦楽をより強く，厚くしている。遠雷とともに雨は上がり，フルートの楽しげなスケールが，あらしの終りを告げると，

第5楽章：牧歌，あらしのあとの喜びと感謝

典型的なロンド形式。クラリネットからホルンに受け継がれる「牧歌」は次第に力強くくり返され，大いなる自然と創造主に対する感謝の気持を高らかに歌いあげる。遠く聞こえる牧人の角笛が穏やかな余韻を残して，この喜びに満ちた交響曲をしめくくる。

バルトーク　管弦楽のための協奏曲

作曲年代　1943年８月15日～同年10月８日
初　　演　1944年12月１日，セルゲイ・クーセヴィツキー指揮ボストン交響楽団，カーネギー・ホール
出　　版　1946年　Hawkes & Son
楽器編成　fl. 3（Picc. 1），ob. 3（cor-ang. 1）cl. 3（bass-cl. 1），fg. 3（contra-fg. 1），hr. 4，tp. 3，tb. 3，tuba 1，timp.，side drum，bass drum，tam-tam，cymb.，trgl.，hp. 2，str.
使用楽譜　Boosey & Hawkes
演奏時間　約47分

バルトークは1940年10月，ファシストに蝕ばまれた祖国ハンガリーに訣別し，アメリカへ亡命した。しかし，自然と農民音楽をこよなく愛したバルトークにとって，大都会ニューヨークの生活は全く悲劇的であり，健康状態の悪化―後に白血病と診断された―と貧困は，単なる援助や安易な仕事を拒否する彼の厳格な性格によってますます絶望的なものとなった。

このようにして，ほぼ３年にわたる沈黙が続いた1943年８月，セルゲイ・クーセヴィツキーが彼に作曲を依頼した。翌1944年に70才を迎えるクーセヴィツキーが，同時にボストン交響楽団指揮者就任20年目になるのを記念する意図があったが，その裏には，バルトークの惨状を見かねたヴァイオリニスト，ヨゼフ・シゲテイや，指揮者，フリッツ・ライナーなど同国人の働らきかけもあった。

久しぶりの仕事の喜びと，ニューヨーク州サラナク湖畔での，３ヶ月の静養とが相俟って，やや健康を回復したため，作曲は順調に進み，約２ヶ月足らずの10月８日に，この「管弦楽のための協奏曲」は完成された。

しかし，この種の作品はその時の思い付きではなく，1939年に出版者ホウクス氏とも討議していた様に，この「１曲の長の管弦楽曲」は亡命以前からの構想であった。

初演は，1944年12月１日，クーセヴィツキー指揮，ボストン交響楽団により，カーネギーホールで行なわれ，バルトークの作品としては異例と言うべき大好評を博し，クーセヴィツキーをして，「この４半世紀の最高の管弦楽作品」と言わしめている。

この作品が「コンチェルト」と名付けられているのは，単一の楽器，あるいは楽器のグループがコンチェルタント風，ないしソロ風に扱かわれているからであろうし，また，バロック時代の合奏協奏曲とのつながりも考えられる。

曲は５楽章からなり，第１楽章と終楽章は，緩徐な導入部ののち，ソナタ形式による急速な主部をもち，第２，第４楽章についても，アレグレットによる「おどけた」楽想をもってそれぞれ，対応している。すなわち，中央に第３楽章をおいたシンメトリックなアーチ型構造をもっている。これについてバルトークは初演のプログラムにおいて，「作品の総体的な雰囲気は，おどけた第２楽章は別として，第１楽章の厳粛さと，第３楽章の死をいたむ歌から終楽章の生の肯定へと移行する漸進的な推移を示す」と記している。

第１楽章：導入部において低弦によって提示される４度を主体とした動機は全体の基本動機となっており，アレグロ・ヴィヴァーチェによる主部も４度の主要主題によって構成され，のちの展開において重要な役割を果すトロンボーンによる経過主題も４度進行を基本にしている。

第２楽章：小太鼓に導びかれてまずファゴットから始まり，次々に一対の管楽器によって「遊び」がくりひろげられる。金楽器のコラールによる中間部をへて，再び「対の遊び」が再現するが，その時は「一対」に第３声が加わったり，対位法的に二対，三対となる。しかし，それぞれの連鎖する部分に主題上の共通性はなく，バロック初期の多部分構造を思わせる。

第３楽章：第１楽章導入部に基づいた４度を基本とした導入部をもち，この楽章単独でも，ＡＢＣＢＡのシンメトリックな構造をなす。

第４楽章：第２楽章同様，連鎖状の形がとられ，４度を基本として楽章の核である３つの主題が次々に連続して登場する。

第５楽章：複合３部形式からなる規模の大きな楽章。カノンやフガートの多声部手法が巧みに用いられている。ホルンの短かい導入の後，無窮動風のパッセージを中心として激しく進行する部分が開始される。トランペット強奏の４度の主題による中間部がさらに反行形や縮少形で展開され，第１部が帰結する。

往診します、おたくの安全。

約30項目の安全点検を行ないます。たとえば…

- 配管など、ガスの施設でガス漏れはないか
- ガス栓はゆるくなったりしていないか
- ゴム管がヒビ割れしたりしていないか
- お使いのガス器具は、ガスのカロリーと合っているか
- お風呂・湯沸器の給排気設備は正しく取付けられているか
- 小型湯沸器などで一酸化炭素が異常に発生していないか…等
- ほかに、ガスの安全な使い方をお知らせします。
- ガスに関するご質問にもお答えします。



東京ガスでは
定期的に、
ガス設備の安全点検にうかがっています。
おたくの安全のために、ぜひ
ご協力ください。
なお、お留守の際には、
連絡ハガキを置きますので、必ず、ご希望日を
お知らせください。

東京ガス